

# 100 年史刊行のご挨拶

祖父・進重郎が和歌山で木材を販売し、山本進重郎商店を創業したのが1922年5月のこと。この度、当社は2022年をもって、おかげさまで100周年を迎えることができました。

企業の平均寿命が約30年と言われるなかで、無事に100年間続けてこられたのも、お取引企業の皆様や、ご愛顧いただいている多くの利用者様、関係者様からのご支援と、会社を支え会社の発展に寄与してきた多くの従業員の皆さまの努力の賜物であると、心から感謝申し上げます。

初代・進重郎が和歌山市内で木材製品の販売を始めてから、当社の歴史は開拓に次ぐ開拓の連続でした。競合の少ない遠方への販路開拓に努め、当時最先端の移動手段や販売方法を駆使して他社との差別化を図り、世界恐慌（1929年）や大東亜戦争（太平洋戦争、1941～45年）を乗り切って、会社を大きく成長させて参りました。

戦後は内地材（杉、檜）から外材（米材、ソ連材）にいち早くシフトし、高度成長の波に乗って和歌山でも最大級の製材工場を立ち上げ、また三菱自動車のディーラーや紀州ゴルフセンターなどのレジャー施設、宅地造成など、時代の波に乗って多角経営をスタートさせました。

1980（昭和55）年には、労働争議による混乱で製材工場を閉鎖し、300名以上いた従業員は20数名まで減少。その後、世の中はバブル景気になり、多くの企業が華やかな好景気を謳歌するなか、当社は何もしない空白の10年を過ごしました。

バブル崩壊（1991年）から3年後、当社は再度、事業展開を始めました。新たに新社屋（本社）を建て、阪神大震災のあった1995年にプレカット事業を開始し復興需要に乗りました。その後、温浴ブームに乗ってスーパー銭湯ユupas、FIFAワールドカップのサッカーブームに乗ってフットサルクラブ西浜ハットトリック、超高齢者社会と医療施設の不足を補う訪問看護事業など、時代のニーズに合わせた新たな事業を次々と展開して参りました。

今100周年の節目を迎えるにあたり、改めてその歴史を振り返り、故きを温ねて新しきを知る、「温故知新」の精神を持って自らを慎み、気を引き締めて努力していく所存です。

世界はコロナ禍とSDGsによって今まで以上に時代の変化が早くなり、企業は益々存続することが困難になりつつあります。私を含めヤマシンの社員全員は、これからも精一杯努力を続け、常に新しいことに挑戦し、真摯に学び経験する姿勢を忘れることなく、一丸となって邁進して参りたいと思います。

皆様方におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2022年7月吉日  
代表取締役社長  
山本 進三

